

## 2017（平成29）年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2017（平成29）年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2018年5月24日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

そのうちの事業活動収支について概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計411.9億円、事業活動支出計330.1億円となりましたので、基本金組入前当年度収支差額は81.7億円の収入超過となりました。

事業活動別に見ますと、教育活動収支差額は27.8億円の収入超過、教育活動外収支差額は、収益事業部会計からの0.6億円を加え6.9億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は34.8億円の収入超過となりました。経常的な収支を除く特別収支差額は46.9億円の収入超過となり、経常収支差額34.8億円と特別収支差額46.9億円の合計が、基本金組入前当年度収支差額81.7億円となります。

科目別に主なものを見ますと、授業料等の学生生徒等納付金270.8億円は、大学新設学部の新設効果や学費改定の年次進行効果などにより、前年比4.7億円の増収となりました。また寄付金（施設設備寄付金も含む）11.4億円は0.5億円の増収となっております。人件費193.8億円は、前年比7.5億円の増加となりました。教育研究経費110.2億円には、ICT教研系システム更新費用5.8億円、大学図書館業務委託費用2.3億円、事務系システム更新費用1.1億円などが含まれ、前年比では6.3億円の減少です。管理経費21.5億円は、前年比17.6億円の減少となりました。特別収支の資産売却差額47.6億円は、土地売却差額と有価証券売却差額です。有価証券売却差額は、主に奨学金のための特定資産について、資金運用のリスク管理の観点から3年計画で金融資産の入れ替えを行ったことにより計上されたもので、当年度で終了しております。

このほか、資金収支計算書に計上する主なものとして、施設関係支出で、中等部校舎建替工事7.2億円、設備関係支出で、ICT教研系システム更新1.9億円、事務系システム更新0.7億円、大学図書（資産）0.7億円などがあります。また学生、生徒、児童、園児の安全安心のため、青山・相模原の両キャンパスにおける校舎等の天井耐震補強工事（3カ所）計1.8億円も実施いたしました。

貸借対照表におけるトピックとしましては、3年計画で実施した金融資産の入れ替えに伴う、3年分の売却益すべてを含めた144.1億円を万代奨学基金分として第3号基本金引当特定資産に追加設定したことです。これにより第3号基本金は万代奨学基金で211.0億円、他の基金と合わせると242.4億円となり大幅に増額することができました。今後は基金からの果実を活用し、奨学金施策等を拡充してまいります。

以上のように、当年度は収入拡大への取り組みや支出の見直しなどの諸施策が一定の成果を現したため経常収支差額が拡大し、さらに不動産や有価証券の売却により特別収支差額が増加したため、基本金組入前当年度収支差額が大きく増加した決算となりました。しかし、今後を展望しますと、入学定員超過率厳格化の影響が続いていることから学生生徒等納付金の増加は難しくなり、補助金の増額も見込めないなど収入面で厳しい状況が予測される一方、支出面では老朽化した施設設備の更新や計画的修繕の着実な実施、戦略的な投資の必要性も強く求められており、支出増が想定されます。

このような状況のなか、昨年11月に策定した「青山学院・新経営宣言」、「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」を軸として、今度とも質の高い教育研究と社会貢献の実現のために、更なる財政基盤の強化を図ってまいります。

以上